



「ロッキー時報」

P. O. Box 1073
Denver, CO
80201
Tel. (303) 295-1848
Fax. (303) 295-0518
毎週水曜日発行

創設年
半年36ドル 1年45ドル
Eメール購読
1年36ドル

在外選挙投票 来る六月二十五日から

デンバー総領事館で

在留邦人の皆さまへ

第二十二回 参議院議員通常選挙 在外公館投票のお知らせ

平成二十二年六月二十四日

在デンバー日本国総領事館

第二十二回参議院議員通常選挙に係る在外公館投票を以下の要領で、在デンバー日本国総領事館において実施します。在外選挙人証を既にお持ちの方はぜひ投票ご参加ください。

一、持参書類

投票に関しては①在外選挙人証および②日本国旅券(または日本の運転免許証等の公共機関が発行する写真付き身分証明書)を必ずご持参願います。

二、投票期間

期間 平成二十二年六月二十五日(金)

七月三日(土)

時間 午前九時三十分～午後五時まで(厳守)

三、投票記載場所

Consulate General of Japan at Denver 1225 17th Street Suite 3000 Denver Colorado 80202 十七番ストリート・プラザビル

三十階 投票記載所

電話 (三〇三) 五三四

一五五 FAX (三〇三) 五三四 三三九三

E mail cgid-consulter@qwest.net ホームページ

http://www.denver.us.emb-japan.go.jp

四、当館以外での

在外公館投票

当館以外での、在外公館投票を実施する日本大使館・総領事館(出張駐在官事務所を含む)であれば、在外選挙人証及び旅券等の顔写真付き身分証明書があれば、いずれの地でも投票できます。在外公館投票をすることの出来る在外公館につきましては、当館あるいは、外務省のホームページでご確認ください。

尚在外公館投票の期間は、選挙の公示日の翌日(六月二十五日)から在外公館ごとに定められた投票締め切り日までとなります。

五、郵便投票

登録先の市区町村選挙管理委員会宛に投票用紙等の交付請求を行い、直接郵便で投票することが出来ます。詳しくは総務省のホームページ <http://www.soumu.go.jp/menu/seisaku/senkyo/index.html>等をご参照ください。

六、日本国内での投票

選挙のときに一時帰国している場合在外選挙認証を提示して投票する方法があります。詳しくは

在デンバー日本国総領事館 電話 (三〇三) 五三四一 一五五 領事班まで

コミュニティ行事

在外選挙投票

六月二十五日から七月三日
在デンバー日本国総領事館

サクラ祭り

六月二十六日(土)
二十七日(日)
午前一〇時～

デンバー仏教会 サクラスクエア

コロラド日系人会

歴史写真展

五十点余が展示されるコロラド移民の写真展示展、毎年五百人以上が訪れる。



ふるしきワークショップ

午後二時三十分
デンバー美術館北館

日本から三人のふるしき研究家、酒井亜希子、安藤直美、福田慶子女士を迎えて日本独特のふるしきをどのように使っていくかデモンストレーションが行われる。参加費は無料。通常の入館料を支払い入場。

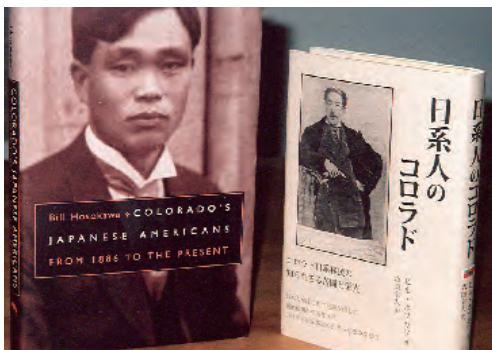
デンバー美術館東洋部

デンバー総領事館

国際交流基金の共催

申し込み必要 上記の総領事館メールアドレスまで。

「日系人のコロラド」出版てん末記



コロラド日系人会の創立百周年を記念して企画されたのがビル・ホソカワ氏の手による歴史本であった。二〇〇六年の春出版にこぎつけ、日系人会が後世に残る記録を自ら出版するという快挙だった。

当初五百冊のハードカバー本を公共図書館に寄附し、六百冊のソフトカバー本を一般に頒布しようという計画だった。

ところが最近になって公共図書館に寄附されたものとして記録のあるのは購入した五百冊のうち九十冊前後で在庫が数十冊に減っている現在、売り上げが日系人会に入金した記録が出てこない。

不審に思いユニバーシティプレス社に問い合わせたところ驚くべき答えが返ってきた。出版元はハードカバー本を日系人会ではなくJACLに売ったのだという。額にすると一万ドルで決して小さな金額ではない。どのような会計上の操作があったのか、当時の会長、副会長、会計係に事情を聞いてみたい。 続く

今泉千絵さんロスに移住

デンバーで二年あまり活動したジャズ作曲家で指揮者の今泉千絵さん(三一)がこのほどロサンゼルスに活動の拠点を移すことになった。

今泉さんは埼玉県出身、パークリー音楽院に学び、ピアノ演奏家志望から、作曲家、指揮者に転向した。日本でジャズピアノリストの女王と呼ばれた秋吉敏子の再来といわれる才能あふれる女性で全米でも有名なジャズ演奏家をひきいてデンバーで活動していた。昨年の独立記念日はデンバーで空軍士官学校ジャズバンドを指揮した。



日本訪問記

小学校のサクラの木を訪ねる

歳を重ねるにしたがって子どもの頃の思い出が懐かしいものになってくる。

去年の春五十六年ぶりに再会をはたした同級生で北京在住の華道家の大坪藤枝さんが日本に一時帰国していたので誘い合って懐かしい母校の板橋区立第五小学校を訪ねた。子どもの頃に見た町並みはすっかり変わっていたが彼女の実家、西谷工務店の建物は持ち主は変わっているが、おなじ場所に立っていた。



写真の後ろにあるサクラの木は昭和二十三年に記念植樹されたもので大木になっていた。あの懐かしい木造校舎は立派になり少子化で生徒数は往年の半分の五百人という。担任の久木田健造先生は当時師範学校を出たての若い先生で今年傘寿を迎えられ健康だ。次回の帰国時にはぜひお目にかかろうということになった。

写真左 母校の校庭で

編集雑記

二〇〇七年の二月に二十九年間発行を続けたロッキー時報を休刊して三年ちかくが経過した。会う人ごとによく言われるのは、日本人コミュニティ内の動向、特に訃報が伝わってこない、永年の知り合いだった人が亡くなっているのに知らなかった・・・という言葉だ。読者の不便はこの一言につきコミュニティ新聞の役割の本質をついている言葉だと思う。

人の最大の関心事は他人の死であるという。発行部数何十万部のデンバーポストも千部のロッキー時報も最もよく読まれる記事は死亡欄なのだろう。

紙の新聞をやめて実感するのは、たとえ小さなタブロイド版の週刊新聞でも日系アメリカ人社会内での理不尽な行為に対してかなりの抑止効果を持っていたのではないかとこのことだ。

「時報」の英文記者は戦時収容所で「マンザナー・フリープレス」の編集長を務めたロニー・竹野さんだった。日系人会館の売却直後の会長だった二世のペテラン古家信夫さんも英文記者の竹野氏が会計報告を求めると当然のように応じていたことを思い出す。

コミュニティの公の財産の運用に透明性があり自浄作用が存在していた。

昨今のデンバーの日系人社会を見渡すと昔に比べてかなりおかしなところがあるように見える。名譽心に駆られて突っ走ってしまいがちな人でも物事を自分の手柄にして認められたい、他人を蹴落としてでも上位に立ちたい、そんな人物が得意げにしているのである。